

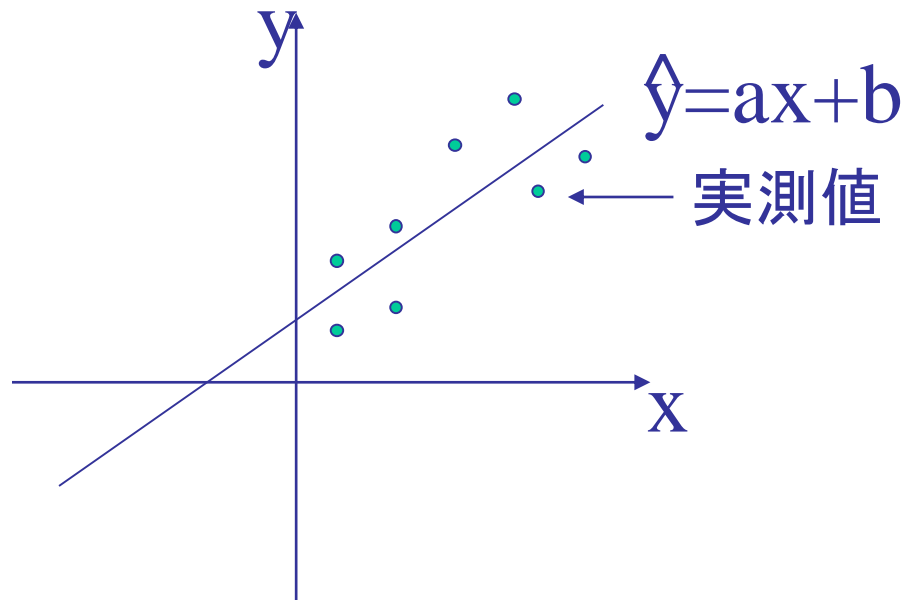
# 最小自乘法

# 回帰分析

- 説明変数と目的変数の関係のモデルを推定する統計的手法
  - ある変量(説明変数)とその変量に対する望みの結果(目的変数)の値がいくつか与えられる
- 説明変数が2つ以上ある場合には, 重回帰分析と言う

# 回帰分析

- 説明変数(  $x$  )と目的変数(  $y$  )の関係の実測値がいくつか与えられたとする(下図)
- $x$  に対する  $y$  の予測値  $\hat{y}$  は,  $\hat{y} = ax + b$  で与えられる
- この直線の最適な係数  $a, b$  を求めることによって, 変数  $x$  と  $y$  の関係が予測する
- 係数  $a, b$  を回帰係数と呼ぶ



# 最小自乗法

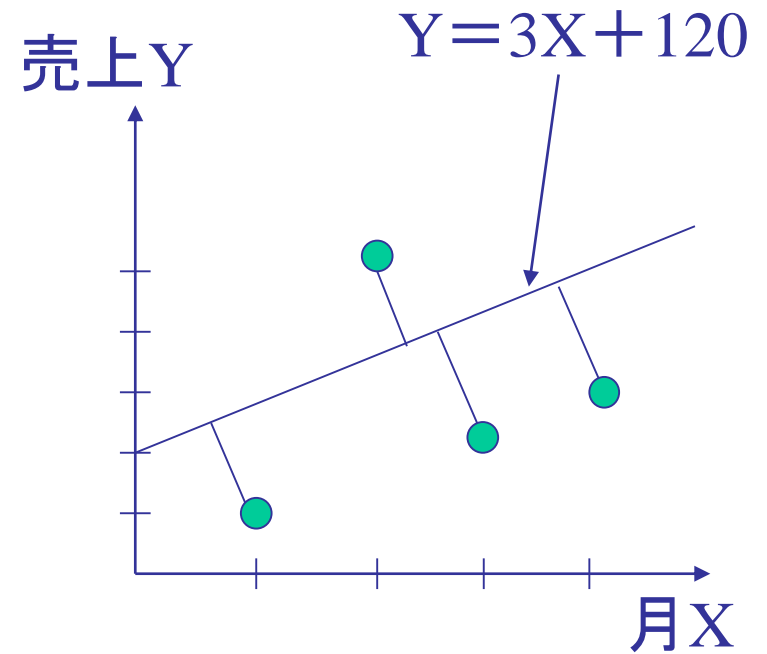
- 回帰係数を求める手法
- 実測値  $y_i$  と予測値  $\hat{y}_i (=ax_i+b)$  の差(残差)の自乗和を最小にするような回帰係数  $a, b$  を求める
  - 実測値のデータの個数:  $N$
  - $x_i$ :  $i$  番目の  $x$  の実測値 ( $i = 1 \cdots N$ )
  - $y_i$ :  $x_i$  に対する  $y$  の実測値とする ( $i = 1 \cdots N$ )
  - $a$ : 直線の傾き
  - $b$ : 切片

# 最小自乗法

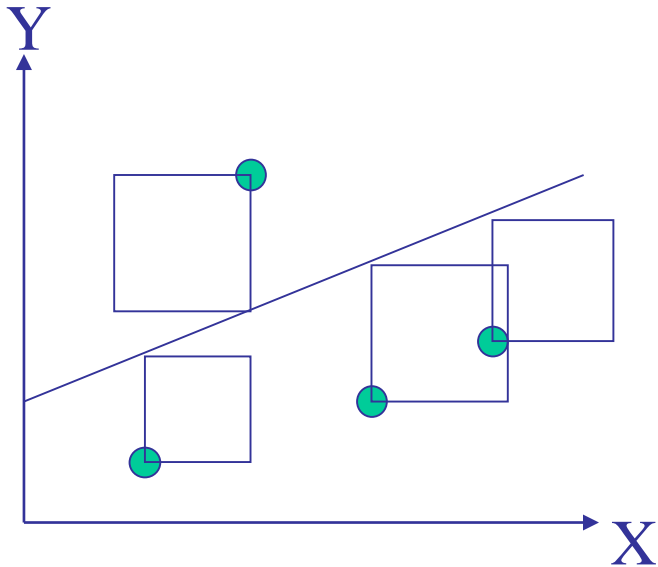
5月の売上は？

月	売上
1月	110
2月	150
3月	120
4月	130
5月	?

実測値



# 最小自乗法



$$y = a + bx + \text{誤差}$$

誤差の自乗和(図の正方形の和)を最小にするようにして未知係数 $a$ と $b$ を求めるので最小自乗法と呼ぶ

# 最小自乗法

- 残差の自乗和:  $Q$

$$\begin{aligned} Q &= \sum_{i=1}^N (y_i - \hat{y}_i)^2 \\ &= \sum_{i=1}^N (y_i - (ax_i + b))^2 \end{aligned} \quad (0)$$

# 最小自乗法

- $Q$ を最小とする  $a, b$  は,  $\frac{\rho Q}{\rho a} = 0$  かつ  $\frac{\rho Q}{\rho b} = 0$  を満たす

$$\frac{\rho Q}{\rho a} = -2 \sum_{i=1}^N x_i (y_i - (ax_i + b)) = 0 \quad - (1)$$

$$\frac{\rho Q}{\rho b} = -2 \sum_{i=1}^N (y_i - (ax_i + b)) = 0 \quad - (2)$$

(1)式を整理すると

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^N x_i (y_i - (ax_i + b)) &= 0 \\ \sum_{i=1}^N x_i y_i - \sum_{i=1}^N (ax_i x_i + bx_i) &= 0 \\ \sum_{i=1}^N x_i y_i - a \sum_{i=1}^N x_i x_i &= b \sum_{i=1}^N x_i \quad - (3) \end{aligned}$$



# 最小自乗法

- 前ページ(2)式を整理すると

$$\sum_{i=1}^N y_i - \sum_{i=1}^N a x_i - \sum_{i=1}^N b = 0$$

$$\sum_{i=1}^N y_i - a \sum_{i=1}^N x_i - N b = 0$$

$$\sum_{i=1}^N y_i - a \sum_{i=1}^N x_i = N b$$

$$b = 1/N \left( \sum_{i=1}^N y_i - a \sum_{i=1}^N x_i \right) \quad - (4)$$

(4)式を(3)式に代入して

$$\begin{aligned}
 \sum_{i=1}^N x_i y_i - a \sum_{i=1}^N x_i x_i &= \frac{1}{N} \left( \sum_{i=1}^N y_i - a \sum_{i=1}^N x_i \right) \sum_{i=1}^N x_i \\
 N \sum_{i=1}^N x_i y_i - a N \sum_{i=1}^N x_i x_i &= \sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N y_i - a \sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N x_i \\
 a \left( \sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N x_i - N \sum_{i=1}^N x_i x_i \right) &= \sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N y_i - N \sum_{i=1}^N x_i y_i \\
 a &= \frac{\sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N y_i - N \sum_{i=1}^N x_i y_i}{\sum_{i=1}^N x_i \sum_{i=1}^N x_i - N \sum_{i=1}^N x_i x_i} \quad (5)
 \end{aligned}$$

以上のようにして、回帰係数を決定

この時のa,bが予測値と実測値の差の自乗を最小にするような、  
 予測値の式の係数

```
#include<stdio.h>
```

```
main()
```

```
{
```

```
    FILE *infile;
```

```
    int i, n;
```

```
    double a, b, x, y, x_sum, y_sum, xy_sum, xx_sum;
```

```
    if ((infile=fopen("input.dat", "r"))==NULL) {
```

```
        printf("can't open file ¥n");
```

```
        exit;
```

```
    }
```

```
    n=0;
```

```
    xy_sum=0;
```

```
    x_sum=0;
```

```
    y_sum=0;
```

```
    xx_sum=0;
```

```
    while( fscanf(infile, "%lf%lf¥n", &x, &y) != EOF ) {
```

```
        xy_sum=xy_sum+x*y;        /* x*y の和 */
```

```
        x_sum=x_sum+x;           /* x の和 */
```

```
        y_sum=y_sum+y;           /* y の和 */
```

```
        xx_sum=xx_sum+x*x;       /* x*x の和 */
```

```
        n=n+1;                   /* データの数 n */
```

```
    }
```

```
    a=(x_sum*y_sum-n*xy_sum) / (x_sum*x_sum-n*xx_sum);
```

```
    b=(y_sum-a*x_sum)/n;
```

```
    printf("y = ax + b¥n");
```

```
    printf("a = %lf¥nb = %lf¥n", a, b);
```

```
    fclose(infile);
```

```
}
```